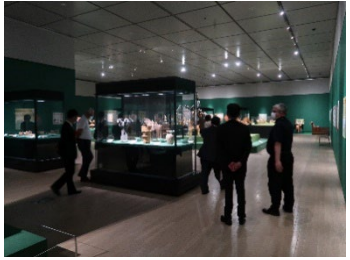


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ①文化財に親しむためのコンテンツの開発とモデル事業の推進							
【年度計画】・I-1-(6)-①-1)、2)、3)、4)								
担当部課	文化財活用センター企画担当	事業責任者	企画担当課長	藤田千織、室長	高橋美奈子			
【実績・成果】								
<p>1)ア 各施設、企業等と連携して高精細複製品を制作した。VR、8Kなど先端技術を使った企画コンテンツ事業の新規開発のみならず、既存コンテンツをさらに進化させるべく機能等の改良にも取り組んだ。制作したコンテンツ等は、東京国立博物館創立150年記念特別企画「未来の博物館」などの展示に活用し、同企画のみでも15万人以上に対して文化財に親しむ機会を提供した。</p> <p>イ 東京国立博物館法隆寺宝物館に、高精細複製やデジタルコンテンツを活用した展示「デジタル法隆寺宝物館」を開設した。(令和4年度日本博「イノベーション型」プロジェクト)</p> <p>2)3年度に文化庁「地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業」の委託を受けて制作した文化財鑑賞コンテンツ「ふれる・まわせる名茶碗」を、TEPIA先端技術館のリニューアルオープン展示に提供した他、愛知県陶磁美術館と共同し同館で年間を通じ公開した。</p> <p>3)「ぶんかつアウトリーチプログラム」として、高精細複製品の外部機関への貸与を行ったほか、首都圏を中心に、全国の小中高学校、博物館に25件の教育プログラムを提供し、特別支援学級の生徒を含む2,792名の児童生徒・来館者が参加した。(青森県学校教育センターとの連携で行った鑑賞教育にかかる教員研修参加者39名を含む。)また、奈良文化財研究所と協力し、5年度から実施予定の「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の新規コンテンツにかかるキットの開発、及び「ぶんかつアウトリーチプログラム」の特別得支援学校用のキットの開発を行った。</p> <p>4)「なぶんけん×ぶんかつアウトリーチプログラム」の参考動画2本の制作、並びに教員自ら実施するための参考映像教材本編及び解説付番外編の映像を合計4本制作し、奈良文化財研究所及び文化財活用センターの公式YouTubeチャンネルで公開した。</p>								
【補足事項】								
<p>1)・30年度～3年度に締結した、キャノン株式会社、凸版印刷株式会社、シャープ株式会社、NHKとの共同プロジェクトを継続。</p> <p>・キャノン株式会社との共同研究で、東京国立博物館所蔵の重要文化財「車争図屏風」、国宝「花下遊楽図屏風」、国宝「納涼図屏風」、国宝「観楓図屏風」、重要文化財「風神雷神/夏秋草図屏風」、「焔」の高精細複製6件の制作を開始したほか、展示やハンズオンなどでの活用目的で、東京国立博物館所蔵の国宝「埴輪 挂甲の武人」、重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「みみずく土偶(土製)」、国宝「袈裟褌文銅鐸(外縁付鈕2式銅鐸)」(追加加工)、「自在蛇置物」(プロトタイプ)、九州国立博物館所蔵の「ウンスンカルタ」、「四区袈裟褌文銅鐸」、奈良国立博物館所蔵の国宝「地獄草紙」、国宝「辟邪絵」、国宝「薬師如来坐像」の複製など計10件を制作した。※4年度より、当該年度内に制作/開発開始したコンテンツを自己点検に含めるよう整理したため、3年度に制作開始(納品は4年度)し、3年度の自己点検に含まれるべきだった2作品「地獄草紙」「辟邪絵」を例外的にこちらに記載した。</p> <p>・キャノン株式会社との共同研究プロジェクトで制作した複製品を米沢市上杉博物館へ6件貸与、並びに教育プログラムの提供を行い、展覧会(8月6日(土)～9月11日(日))への特別協力を行った。</p> <p>・これまでに制作・開発した高精細複製・デジタルコンテンツを活用した体験型展示「未来の博物館」を東京国立博物館で開催した。(10月18日～12月11日)48日間で延べ150,296人が来場し、97.5%から「とてもよい/よい」の評価を得た。</p> <p>・「未来の博物館」関連企画として、展示コンテンツと連動した子ども向けの仏像鑑賞プログラム「ぶつぞう調査隊」(実施日:10月23日・11月27日、延べ参加者数587名)及びワークシート「調査に挑戦!」を開発・実施した。</p> <p>・トーハク新時代プランに基づき、東京国立博物館本館特別3室に高精細複製品や非接触体験展示による日本美術に親しむための常設体験展示室「日本美術のとびら」を継続して開室(4月1日～8月31日、5年3月27日～3月31日)。1月2日～3月12日の間は「未来の博物館」で展開した「四季をめぐる高精細複製屏風」を「日本美術のとびら 四季」として展開した。</p> <p>・NHKと東京国立博物館の共同研究「みんなの8K文化財」プロジェクトのマネジメントを行い、8K技術を用いた文化財の鑑賞方法を開発する調査・研究の一環で「梶島糸肩赤威胴丸」「能面 小面(天下一河内印)」「能面 伝山姥」の8K文化財を制作した。</p> <p>・また、国宝「救世観音像」(法隆寺)の映像、国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」の映像コンテンツの制作、重要文化財「遮光器土偶」、重要文化財「梶島糸肩赤威胴丸」、重要文化財「能面 小面」の体験型コンテンツ、国宝「救世観音像」(法隆寺)の8K文化財コンテンツ及び手話CG(実証実験)の制作を行い、これらを「未来の博物館」において公開した。</p> <p>2)愛知県陶磁美術館と共同で「ふれる・まわせる名茶碗」(3年度制作)を公開し、体験者アンケートを行った(公開期間:4月1日～3月31日)。93.1%から「とてもよい/よい」の評価を得た。</p>								
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
コンテンツ開発・展開数	36件	-	-		-	-	-	24
うちコンテンツ開発件数	29件	-	-		-	-	-	18
【年度計画に対する総合評価】 評定:A	【判定根拠、課題と対応】 企業と連携した高精細複製制作や、先端技術を使った体験コンテンツの開発などを意欲的に行い、共同研究の成果として特別企画「未来の博物館」において広く公開した。「未来の博物館」では15万人を超える来館者が体験し、人々が文化財に触れる機会を拡大することができた。アンケートによる評価等も好調であることから、年度計画は達成したと言える。							
【中期計画記載事項】 高度な技術で制作された複製や、VR・AR、8K映像などの先端技術を使った企画コンテンツ事業を積極的に推し進めることで、文化財の新しい活用方法を探り、これまで文化財に触れる機会のなかった人々にも、学ぶ喜びや、楽しい時間を創出する。								
【中期計画に対する評価】 評定:B	【判定根拠、課題と対応】 使用者の目的・ニーズに対応した文化財の高精細複製や、VR、AR、8K映像など先端技術を使ったコンテンツの開発を企業と連携して行った。この成果を「未来の博物館」で公開したほか、コンテンツの貸出等を通じ学習機会の拡大や文化財に親しむ機会を創出することができ、中期計画を順調に遂行できている。5年度以降も、地域の博物館、学校などと連携協力し、各地域での活用を推進したい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ②国立博物館の収蔵品の貸与の促進							
【年度計画】 ・ I-1-(6)-②-1)								
担当部課	文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長	沖松健次郎				
【実績・成果】								
1) 文化財活用センターは各国立博物館と共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生、観光振興並びに次世代への文化財継承に寄与することを目指して国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、国内の博物館等6機関に113件（大規模貸与：2機関79件、小規模貸与：4機関34件）の文化財を貸与した。このうち沖縄については、本土復帰50年展の地元開催への貢献となった。また、各館で実施された来館者アンケートからは、展覧会を通じてあらためて地域の文化と歴史を知る良い機会となったなどの声が寄せられた。								
<u>大規模貸与</u> 鹿児島県歴史・美術センター黎明館「茶の湯と薩摩」貸与件数：30件 沖縄県立博物館・美術館「復帰50年展 琉球—美とその背景—」貸与件数：49件 <u>小規模貸与</u> 刈谷市歴史博物館「伊勢物語とかきつばた」貸与件数：3件 島根県立古代出雲歴史博物館「ハニワの世界へようこそ」貸与件数：9件 足利市立美術館「あしかがの歴史と文化再発見！—鎌倉殿の義弟 足利義兼の祈り 大日如来坐像」貸与件数：16件 滋賀県立安土城考古博物館「里帰り！日本最大の銅鐸—太古の響きを安土の地で—」貸与件数：6件								
								
島根県立古代出雲歴史博物館 「ハニワの世界へようこそ」 会場風景								
【補足事項】								
1) 文化財活用センターは、開催館までの往復作品輸送費・保険料・出張費、及び大規模貸与の事業実施対象館のうち鹿児島県歴史・美術センター黎明館「茶の湯と薩摩」展に対し、広報費を支出した。 広報媒体は以下の通り。 ① ポスター・チラシ、②スマホアプリへの広告掲載ページ制作、③屋外看板、④地元新聞への広告掲載 (※すべての広告に貸与促進事業の特別協力を受けている旨が明記されている。) また、貸与にあたり、東京国立博物館収蔵品11件（沖縄貸与分：9件、滋賀貸与分2件）の応急修理を行った。								
2) 文化財活用センターの保存修理費により修理が完了した「J-1474 石棒」、及び5年度内に完了予定の「J-22408 甕形土器」の2件を、令和6年度国立博物館収蔵品貸与促進事業の申請要項にある、「貸与可能作品リスト」へ追加掲載した。								
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評価		30	元	2	3
事業実施件数	6件	-	-	経年 変化	-	5	5	5
貸与件数	113件	-	-		-	71	116	89
うち国内の貸与件数	113件	-	-		-	71	116	89
うち国外の貸与件数	0件	-	-		-	0	0	0
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 これまで国立博物館から作品を借りた実績がない、いわゆる「新規貸与館」1館（刈谷市歴史博物館）に対し、本事業を通じて収蔵品を貸し出すことができた。 また、島根県立古代出雲歴史博物館、足利市立美術館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、滋賀県立安土城考古博物館、沖縄県立博物館・美術館においては、各地域への里帰り作品を多く貸し出すことができた。特に沖縄県立博物館・美術館では、現地にはすでに残っておらず、県内初公開となる百田紙などの民俗資料も貸与品に含まれ、本事業の趣旨にかなった意義ある事業展開を行うことができた。							
【中期計画記載事項】 国立博物館が収蔵する文化財を全国の博物館・美術館等での展示で活用するため、貸与促進事業を実施し、地方創生・観光振興にも寄与する。実施にあたっては、作品の輸送費や広報費等を負担するとともに、文化財の魅力と価値を広く伝える活動に取り組む。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 直近3年間では最多の6施設に貸与を行い、中期計画2年度として、順調に実施が来ている。5年度以降も各国立博物館と連絡を密にしつつ、更に文化財研究所との連携も視野に入れ、事業の周知、実施に力を入れていく予定である。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																
事業名	(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ③文化財情報のデジタル資源化の推進と国内外への情報発信																																
【年度計画】 ・ I-1-(6)-③-1)、2)、3)、4)																																	
担当部課	文化財活用センターデジタル資源担当 文化財活用センター企画担当	事業責任者	課長 村田良二 企画担当課長 藤田千織																														
【実績・成果】 1)各施設と連携して、所蔵品データベース「ColBase 国立文化財機構所蔵品統合検索システム」について、掲載画像を追加した(追加画像数63,379枚)。収蔵品テキスト情報をダウンロード可能とするなどの機能向上をは図った。また、政府標準利用規約2.0/CC BYを広範に設定し、文化財資料の利活用促進に寄与するとともに、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」と連携する際のメタデータ整備において一つのモデルを提示した活動を評価され、「デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会により新設された「デジタルアーカイブジャパン・アワード」を受賞した。 2)各施設と連携して、4館及び奈良文化財研究所所蔵の国宝・重要文化財について、4言語(日、英、中、韓)の説明を付したデジタル高精細画像を公開する「e国宝 国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財」のデータを更新(追加作品1件)、解説文の見直しを継続して行った(解説文見直し300件)。 3)「ジャパンサーチ」と「ColBase」のデータ連携形態を更新し、自動的に定期的なデータ更新が図れる仕組みを構築した。 4)文化財活用センターのウェブサイト、SNS等を活用し、文化財活用センターの活動の周知並びに、文化財全般にかかる情報の発信を行った。																																	
【補足事項】 1)「ColBase」に所蔵品テキスト情報(名称、解説など)をまとめたTSVファイルを掲載した。各言語版と、全ての言語情報を統合した版を準備しており、誰でもダウンロードして活用することが可能である。あわせて、「ジャパンサーチ」が当所蔵品テキスト情報ファイルを定期的に収集し、情報更新するかたちへと連携形態を変更した。 2)Nintendo Switchのゲームソフト『あつまれ どうぶつの森』の中に、国立文化財機構の所蔵品をモチーフとしたエリアで構成される「ぶんかつ島」を作成した。本ゲームをきっかけとして、ゲームプレイヤーの方々に日本美術ならびに当機構所蔵品を知ってもらうことができた。																																	
<table border="1"> <tr> <td>【評価指標】</td> <td>4年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評定</td> <td rowspan="3">経 年 変 化</td> <td>30</td> <td>元</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>e国宝の アクセス件数 ※1</td> <td>818,665件</td> <td>516,808件</td> <td>A</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>215,337 ※2</td> <td>650,197</td> </tr> <tr> <td>ColBaseの アクセス件数</td> <td>250,005件</td> <td>61,026件</td> <td>A</td> <td>54,338</td> <td>76,875</td> <td>140,553</td> <td>142,970</td> </tr> </table>									【評価指標】	4年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	30	元	2	3	e国宝の アクセス件数 ※1	818,665件	516,808件	A	-	-	215,337 ※2	650,197	ColBaseの アクセス件数	250,005件	61,026件	A	54,338	76,875	140,553	142,970
【評価指標】	4年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	30	元	2	3																									
e国宝の アクセス件数 ※1	818,665件	516,808件	A		-	-	215,337 ※2	650,197																									
ColBaseの アクセス件数	250,005件	61,026件	A		54,338	76,875	140,553	142,970																									
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 アクセス件数について、「e 国宝」・「ColBase」とも目標値を上回っている。また、どちらもデータ、システムともに継続的に改善、充実を図ることができたため、B評価とする。																													
【中期計画記載事項】 ColBase(国立文化財機構所蔵品統合検索システム)、e 国宝(文化財高精細画像公開システム)の内容の充実を図る。																																	
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 「ColBase」、「e 国宝」それぞれで継続的にデータを追加・更新するだけでなく、「ColBase」におけるテキストダウンロード機能の追加を行うなど、コンテンツとシステムの両方で内容の充実を図ることができた。また、国内外で人気のゲームを通じて、より幅広く所蔵品情報の発信を行うことができたことから、中期計画を遂行できているといえる。																													



ColBase データセット ダウンロード画

※1:e 国宝のアクセス件数については、2年度のリニューアルにより件数集計方法が変更されたため、元年度までのアクセス件数を参考値とした。リニューアル後の2年11月1日～3年3月31日のアクセス件数より、1年間分のアクセス件数を算出し、目標値とした。

※2:2年11月1日～3年3月31日のアクセス件数。(ユーザーセッション件数)

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(6) 文化財の積極的な活用による文化財の継承につなげる新たな取組 ④文化財保存の質的向上に資するための協力、支援、人材育成							
【年度計画】 ・ I-1-(6)-④-1)、2)、3)、4)								
担当部課	文化財活用センター 保存担当	事業責任者	課長 吉田直人					
【実績・成果】 イ 文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している51施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、39施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、6施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。その他は継続中である。 ロ 公開承認施設の申請を予定している2施設に対して保存環境調査を行い、1施設に対して環境調査報告書を提出した。他の1施設については、提出された環境データなどから、現状と今後の管理体制に関する所見を示した。 ハ 5年度貸与促進事業に応募した11施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与が内定し、かつ東京国立博物館からの貸与実績のない4施設について、展示環境調査に着手した。 ニ 国内の博物館・美術館等からの保存環境管理や改善に関する相談に対して、助言を行った(87件)。そのうち、具体的な原因究明や調査研究的な対応が必要と判断した案件に対して、現地調査を行った(10件)。 ホ 新築や増改築を予定している文化財保存施設について、関係者と直接協議を行い、保存のための良好な温湿度や空気環境維持の観点から、設計や設備について、また、竣工後の環境モニタリング方法などに関して助言を行った(15件) ヘ 4年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修(基礎コース)」を8月1日～5日、1月23日～27日の2回、同一内容でそれぞれ開催し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った。 ト 資料保存専従学芸員等を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を8月23日と3月6日、それぞれ東京文化財研究所との共催により実施した。 チ 新型コロナウイルスに対応した消毒剤の文化財に与える影響、および、展示空間の内装材として使用されるクロス材からのアンモニア放散について調査を行い、結果を学会等で発表した。								
【補足事項】 イ、ロ これらの調査は、文化庁文化財第一課長発の協力依頼(3年4月9日付 3文財-第7号)に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼を受け、実施したものである。 ヘ 研修受講者数：8月開催、1月開催ともにそれぞれ20名。 ト 第4回「保存環境調査・管理に関する講習会-室内汚染物質の精密測定-」(会場参加4名、リモート参加15名)、第5回「保存環境調査・管理に関する講習会-クロスから放散するアンモニアについて-」(会場参加2名、リモート参加17名)。 チ 間瀬創・吉田直人「新型コロナ感染症対策に用いられる消毒剤が文化財へ与える影響についての調査事例」文化財保存修復学会第44回大会(6月19日、熊本)								
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評定	経年 変化	30	元	2	3
文化財保存等の相談・助言・支援の取組状況	191件	-	-		20	136	76	253
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 いずれの事業も、実績値はコロナ禍以前の水準に戻り、さらに上回るものもあった。研修、講習会も、当初想定していた回数の実施が実現し、環境管理に関する最新の知見、技術等を周知することが叶った。また、保存環境に関する調査研究は、学会等で公表するレベルの知見を得るまでとなった。以上より、本評価とする。							
【中期計画記載事項】 「活用との両立」の観点より、文化財の展示・収蔵環境向上に資するための、相談や協議対応、改善のための調査協力や技術支援、研修会や講習会を通じた環境管理に携わる人材育成を行う。また、環境管理に係る調査研究を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 文化財保存施設への保存環境向上に資するための諸協力、研修会や講習会等を通じた人材育成、また、環境管理に関する基礎研究、いずれの項目も中期計画に沿った実績を得ていることから、順調に推移しているものと評価する。今後、文化財施設における環境管理も、脱炭素が求められ、建築物における木材利用促進など、大きな変革が予想されるため、これを見据えた情報収集、適切かつ迅速な対応を行っていききたい。							